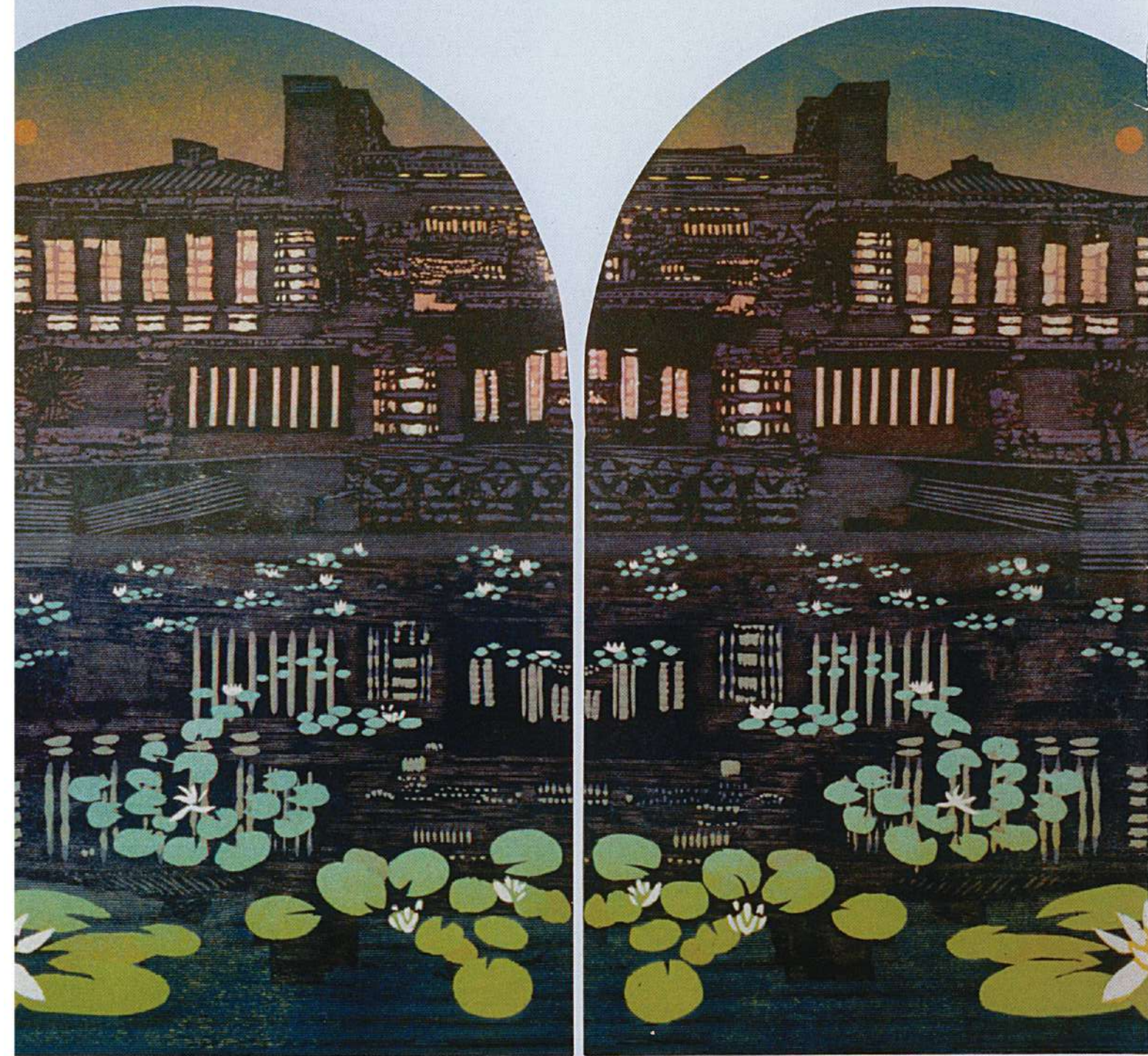


MEIJIMURA

Vol.92 2018 Summer
明治村だより



Contents

明治時代の朝顔事情	2	夏の催しもの	5
語り継ぐ建築 人物編	3	A La Meiji-mura	6
明治村ドラマロケ地MAP	4	MEIJIMURA TOPICS	裏表紙

M E I J I M U R A T O P I C S

明治村の資料が出張します！

六本木ヒルズ・森美術館15周年記念展
「建築の日本展 その遺伝子のもたらすもの」

会場：森美術館 会期：4月25日～9月17日
旧帝国ホテルの解体材である食堂入口の柱の一部と、シカゴ万博鳥瞰絵図が出品されています。



シカゴ万博鳥瞰絵図

明治150年記念
「華ひらく皇室文化 明治宮廷を彩る技と美」

会場：秋田市立千秋美術館 会期：7月21日～9月2日
旧東宮御所の孔雀之間で使用されていた、机、肘掛椅子、足台、花台などが出品されます。本展覧会はこの後、10月に京都へと巡回いたします。



孔雀之間で使用されていた家具 (明治村での展示風景)

博物館明治村 協賛会員 募集案内

博物館明治村では、歴史的建造物の修繕や展示など村内整備の充実を図るため広く皆様のご支援を募っています。

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1. 法人会員の種類と会費(各1口あたり、消費税込)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般会員 10万円 ○ゴールド会員 100万円 | <p>3. 会員期間</p> <p>入会日より1年間
(入会月の翌年当月末日まで)</p> | <p>5. 問い合わせ先</p> <p>公益財団法人明治村 協賛担当
住所：〒484-0000
愛知県犬山市字内山1番地
TEL：0568-67-0314
E-mail：meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp</p> |
| <p>2. 会費の用途</p> <p>明治村で展示・保存されている建造物の修繕や、村内の整備など公益目的事業費に充てさせていただきます。</p> | <p>4. 会員の特典</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会員証(記名式)の発行 ○招待券の贈呈 ○刊行物等の贈呈 ○芳名の掲示 ○法人名の銘板付きベンチの設置 (ゴールド会員のみ) | |

協賛会員 (平成30年5月23日現在)

敬称略：五十音順

株式会社アイチケン	アサヒ飲料株式会社	アサヒビール株式会社	伊藤忠商事株式会社
株式会社魚津社寺工務店	株式会社NTTファシリティーズ	鹿島建設株式会社	キリンビール株式会社
サッポロビール株式会社	サントリーコーポレートビジネス株式会社	ソフトバンク株式会社	大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店	中京テレビ放送株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	名古屋ダイヤモンドファインズ株式会社
名古屋トヨペット株式会社	一般社団法人ナゴヤハウジングセンター	西日本電信電話株式会社	株式会社日建設計
バナホーム株式会社	ビジネスコミュニケーション株式会社	株式会社日立製作所	株式会社ファミリーマート
ブリヂストンタイヤジャパン株式会社	三菱電機株式会社	名鉄EIエンジニア株式会社	名鉄環境造園株式会社
名鉄ビルディング管理株式会社	株式会社ローソン		

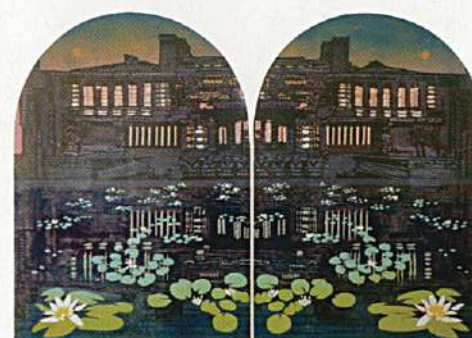
休村日 7月24日～8月28日の毎週火曜日(8月14日をのぞく)
9月3日～9月7日

平成30年6月25日発行
「明治村だより」第92号(平成30年夏)

発行 博物館明治村 〒484-0000 愛知県犬山市内山一丁目
電話 (0568) 67-0314 <http://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第93号発行のお知らせ
発行時期 平成30年9月中旬(予定)
申込方法 「明治村だより」第93号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料(含発送手数料)140円とともに現金書留にてお申し込み下さい。



「明治はるあき 帝国ホテル中央玄関」前田守一画 平成8年

明治時代の朝顔事情

日 本の夏を彩る草花といえば朝顔が挙げられます。もとは奈良時代に、遣唐使によって中国から下剤の薬草として伝わったとされています。現在のよう

に夏の風物詩として観賞用の植物となるのは江戸時代以降で、現在の東京都台東区の入谷や、当時染井と呼ばれた豊島区駒込あたりでは、盛んに品評会や朝顔市が開かれたり、朝顔を扱った園芸書や図鑑なども販売されるほどでした(図1、2)。

となります。これらの流行で、第二期以降、特に珍重されたのは、突然変異で生じた通常の品種とは異なる花や葉を持つ「変化朝顔」でした。

明治時代に発行された、当時の流行や地方の習慣などを紹介する雑誌「風俗画報」一七〇号には、明治三十一(一八九八)年に東京四谷で開催された朝顔品評会の模様が掲載されています(図3)。全勝寺というお寺を会場に、支柱を立てて朝顔のつるを絡ませて育てる「行灯仕立て」にされた朝顔が、雑段に並べられています。この品評会を主催したのは、東京四谷の「一六会」と呼ばれる団体でした。記事によると、観賞用朝顔の優れた栽培技術を持った有志者

の集まりで、出品される朝顔は非常に珍しいものが多いため、毎回人々を驚かせていると記されています。

江戸時代に起きた第一期のブームで育てられた朝顔の多くは「正木」と呼ばれ、種子ができる性質のものが多く、種をとって置いて植えれば、また次の世代でも同じ花や葉のかたちのものが育ちました。そのため、それぞれの朝顔は「磯千鳥」、「舞乙女」といった固有の品種名で呼ぶことができました。第二期以降、主として栽培された変化朝顔は「出物」と呼ばれ、種子ができず、株ごとに異なる花や葉のかたちになるという特徴があり、育った花や葉の状態を示す「花銘」が開花後につけられました。



図1 入谷の朝顔市の様子が描かれた石版画 明治22(1889)年

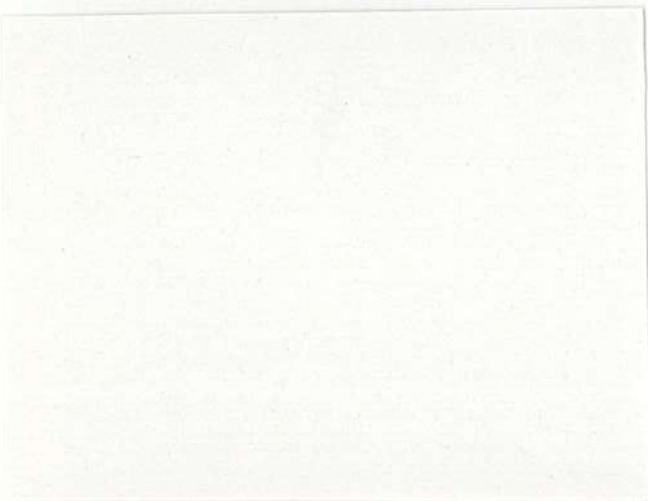


図3 四谷で開催された品評会の様子「風俗画報」より

そのため変化朝顔には、非常に長い花銘がつけられることになりました。例えば、先に挙げた品評会の花や葉のかたちを競う部門で一等となった作品は、「青打込槍葉紅紫筋金入獅子」というものです。「青打込槍」が葉の様子を、「紫筋金入獅子」は花の形状を表現しています。その他に

も、「龍眉八ツ手風折縮緬芝舟葉小豆色藍天鷲絨筋金牡丹度咲」、「青斑入抱笹葉薄紅花笠数切八重」といったように、花や葉、茎の形状が詳細に示されています。雑誌にはそれぞれ絵入りで紹介されているので、絵と銘とを見比べると、銘で表現しようとしているものと形状が一致していることが分かります(図4、図5)。

こうして誕生した様々な変化朝顔は、第二次世界大戦の影響で多くが失われましたが、現在でも愛好家によって一部が保存されています。

明治村では、風鈴や釣りしりのぶ、そして朝顔など、各所で涼を感じられる夏のしつらえを行います。明治時代の人々が夢中になった朝顔をはじめ、夏ならではのしつらえとなった明治村の建物をどうぞお楽しみください。



図4 龍眉八ツ手風折縮緬芝舟葉小豆色藍天鷲絨筋金牡丹度咲



図5 青斑入抱笹葉薄紅花笠数切八重

参考文献

- 国立歴史民俗博物館
- 「伝統の朝顔」一九九九
- 「海をわたった華花—ヒヨウタンからアサガオまで—」二〇〇四
- 松田修「植物世相史」社会思想社一九七二

NHK連続テレビ小説「半分、青い。」
放送期間/2018年4月2日~放映中

NHK連続テレビ小説「わろてんか」
放送期間/2017年10月2日~2018年3月31日

① 帝国ホテル中央玄関内・喫茶室

5丁目67番地

榎野鈴愛と小林くんがデート中に食事をした場所

① 聖ザビエル天主堂

5丁目51番地

伊能菜がリリコを主演にした活動写真を撮影していた場所

② 金沢監獄中央看守所・監房

5丁目62番地

監獄の様子にはしゃぐ榎野鈴愛に対して、小林くんはその趣味に引いてしまい鈴愛への気持ちが醒めてしまった場所

② 名古屋衛成病院

4丁目37番地

「わろてんか隊」が訪れた上海の慰問先(外観のみ)

③ 天童眼鏡橋

5丁目54番地

榎野鈴愛と小林くんがイヤホンを片方ずつ耳につけてウォークマンを聞きながら話していた場所

④ 聖ザビエル天主堂

5丁目51番地

小林くんが「鈴愛さんの、左耳になります!」と榎野鈴愛に誓った場所

⑤ レンガ通り

2丁目

榎野鈴愛と小林くんが歩きながら楽しそうに話していたり、鈴愛が公衆電話で幼なじみの萩尾律にデートのアドバイスを求めて電話をしていた場所

⑥ 三重県庁舎

1丁目13番地

榎野鈴愛が小林くんとデートの待ち合わせをした場所

⑦ 森鷗外・夏目漱石住宅

1丁目9番地

榎野鈴愛が公衆電話で電話をしている間、小林くんが縁側に腰掛けて休憩していた場所

⑦ 三重県尋常師範学校・蔵持小学校

1丁目3番地

北村てんの息子・隼也が通っていた小学校

③ 歩兵第六聯隊兵舎

4丁目36番地

大阪のラジオ局・大阪中央放送所(外観のみ)や「わろてんか隊」が訪れた上海の慰問先(外観のみ)

④ 日本赤十字社中央病院病棟

4丁目35番地

「わろてんか隊」が訪れた上海の慰問先(外観のみ)

⑤ 西園寺公望別邸「坐漁荘」

3丁目27番地

北村笑店が安木節乙女組のために用意した女子寮「風ひな寮」(外観のみ)安木節乙女組メンバーのオーディションを行った島根県の旅館 など

⑥ 北里研究所本館・医学館

3丁目25番地

突如倒れて意識不明となっていた北村藤吉が入院した病院(外観のみ)



明治LADIES

●2丁目20番地 安田銀行会津支店



図1 現世佳人集 橋本周延画

明治時代になつてから復活したものです。明治時代に入ると学校、製糸工場など一般婦人の職場は、着物や袴を制服として取り入れることになりました。学校の教室は机と椅子の生活なので、教師・生徒共に裾の乱れを気にするようになったため、文部省は女学校開設あたり太政官布告で女教師・女生徒の袴着用を認めました。

明治村の二丁目にある明治四十年(一九〇七)年に建てられた安田銀行会津支店の中には、明治時代の衣装が体験できるハイカラ衣装館があり、来村者の多くの方が訪ねる場所になっています。ここで体験できるのは女学生衣装、書生、オリジナルドレス、フロックコートの四種類です。

女学生衣装、書生服は日本近代教育の始まりとともに学生たちに着用されていたものと思われています。オリジナルドレスの中のパスルススタイル(Passl's style)ドレスは鹿鳴館時代を特徴づけるドレスとして知られ、フロックコートは正装として位置づけられていました。

ここでは女学生衣装と婦人洋装の変遷から、西洋文化を取り入れ、新たな日本文化を作り出そうとしていた明治という時代の服装事情を簡単に紹介します。

女学生衣装

平安時代以来、一定階級以上の女性たちが着用してきた袴は鎌倉時代以降衰退し、

中禮服 Robe decolleté 夜會晚餐等二用ユ
小禮服 Robe mi-decolletée 同上
通常禮服 Robe montante 裾長キ仕立ニテ宮中晝ノ御陪食等二用ユ(図4)
婦人の洋装には当時のヨーロッパでの流行も反映されており、一八七〇年代、九〇年代に大流行したパスルススタイルドレス(図5)は、鹿鳴館の舞踏会で多くの上流婦人が着用しました。一八六〇年代

末頃から、ヨーロッパの婦人服のスカートは五〇年代の円錐形から、前面が平らになり、後ろの腰にのみふくらみが残る形のパスルススタイルドレスに変化しました。このラインを支えた腰当てがパッスルと呼ばれたことから、ドレスの名称になりました。

明治二〇(一八八七)年一月十七日には皇后より洋服の着用を奨励する恩召書が出され、「勉めて我が国産を用ひん事なり。若し能く国産を用ひ得ば、傍ら製造の改良をも誘ひ、美術の進歩をも導き、兼ねて商工にも、益を興ふることおかるべく」と国内の産業振興のきっかけになる国産の洋服の製造や着用を呼びかけています。

服装の変化からも、明治時代の西洋文化受容は単なる欧米の模倣ではなく、政府や皇族を中心に、外国の文化を取り入れつつ、既存の技術・習慣、規則を改良しながら、国内産業の復興にも心かけていたことが分かります。

参考文献

- 遠藤武「遠藤武著作集 第二巻 近代編」文化出版局 一九八七
- 昭和女子大学被服学研究室「近代日本服装史」近代文化研究所 一九七
- 中山千代「日本婦人洋装史」吉川弘文館 一九八七
- 原のお子「監修「女子宮廷服と構成技法」洋服編」衣生活研究会 一九八
- 深井 晃子「京都服飾文化研究財団コレクション ファッション」18世紀から現代まで」タフシェン社 二〇〇二

「建物を支える石」

●2丁目21番地
札幌電話交換局ほか



明治時代の建築において象徴的な建材というところ、レンガ、石、鉄などが挙げられます。中でも石は、明治以前から石垣や蔵、あるいは基礎部分といった、主に家屋の周辺や見えないところで活用されていましたが、明治以降に西洋建築が伝わることで、床や外壁にも使用されるようになりまし。

あまり目が行かないような土台や階段といった場所にも使用され、石をじっくり見るとその建物があつた地域ごとの特色を見い出すことができます。

同じく二丁目にある第四高等学校物理化学教室の東西入口の階段や土台部分には、金沢周辺で採れた石が使用されています。これらの石は、金沢市にある戸室山で産出された「戸室石」と呼ばれる「角閃石安山岩」の一種で、石の中に含まれる鉱物の種類が札幌硬石とは異なり、硬く耐熱、耐寒に優れているのが特徴です(写真2)。

と青みがかつた「青戸室」とがあり、物理化学教室では青戸室が使用されていますが、城の石垣をはじめ、市内では赤戸室の方が多く見受けられるようです。このように、建物のあまり目立たない場所に使われている石にも、その建物があつた土地ならではのものが使われています。見学の時には、建物の上ばかりではなく、ぜひ下の方にも注目して見比べていただくと、建物のあつた地域ごとの特徴が見出せるかもしれません。

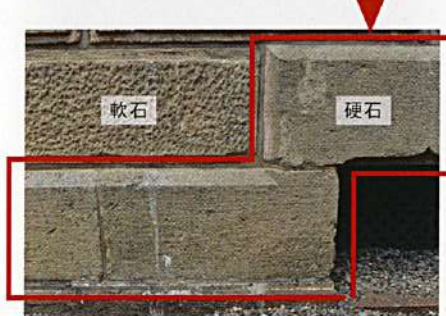
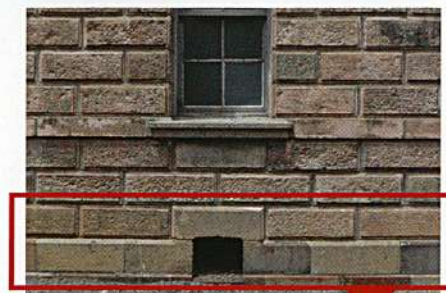


写真1 札幌電話交換局の札幌硬石

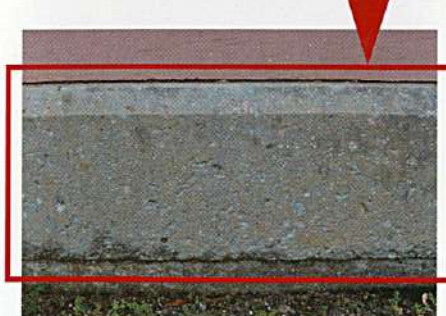


写真2 第四高等学校物理化学教室の戸室石

注釈

注1 国会議事堂の建築にあたり行われた、全国の石材調査の結果を臨時議院建築局が編纂した書籍。国内の様々な種類の石材の産地とその特徴がまとめられている。

注2 「北海道石狩国札幌郡藻谷村(藻谷村の記説と思われる)山鼻登尾別(八重別硬石)」として紹介されています。「八重別」は、硬石山のあるあたりの旧地名で、後に札幌市に編入されました。

参考文献
小林章「金沢における戸室石利用の意義」ランドスケープ研究 六十五巻五号 日本造園学会 二〇〇二
小山一郎「日本産土木建築石材」日本鉱業新聞社 一九二一
臨時議院建築局編「日本産建築石材」一九二一